

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 10 日作成)

委員会名	都市企画小委員会	主 査 名：佐藤 滋
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：鳴海 邦碩
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>(具体的な目標)</p> <p>(1) 都市計画委員会および関連委員会における研究成果の体系化、専門実務家・地域社会への公開、および出版・講習会開催を通じた普及活動</p> <p>(2) 都市計画分野における新規研究活動テーマの発掘、創造および関連委員会との連携研究の実施と支援</p> <p>(3) アーバンデザイン教科書(仮称)の執筆・編集・刊行</p> <p>(4) アーバンデザイン図集(仮称)の執筆・編集・刊行</p> <p>(5) まちづくり建築支援会議(仮称)が行う講習会開催の支援、およびテキストの執筆・編集・刊行</p> <p>(6) 都市計画委員会ホームページの運営、管理およびメーリングリストを活用した委員会活動・成果の情報公開と広報活動</p> <p>(7) 建築学会支部都市計画委員会および関連諸団体との関連情報共有化システムの開発、および小委員会活動紹介の在り方についての検討</p> <p>(8) 東南アジア諸国の都市居住環境を中心とした、自然環境保全・改善に関わる都市計画手法、制度の研究と成果の公開</p> <p>本小委員会は都市計画委員会所属の各小委員会およびワーキンググループにおける研究活動成果を体系化し、出版物刊行、講習会・シンポジウム開催などを通して専門実務家や地域社会への公開と普及の促進を目的とする。上記目的達成のため、都市計画委員会所属のタスクフォース型ワーキンググループを本小委員会下に移行し、具体的な出版物や講習会などの成果として結実させることを重点目標とする。</p> <p>(活動の具体的方法、内容)</p> <p><u>2004 年度：</u></p> <p>以下のタスクフォース型WGを設置し、各タスクの目標を達成するために必要な資料収集、整理、分析、および研究を行い、その成果の取りまとめを行い、できるだけ広く社会的に成果の公開を行う。</p> <p>(1)アーバンデザインWG、(2)まちづくり・建築ガイドラインWG、(3)情報化WG、(4)環境地域計画WG、(5)参加のまちづくり協働デザインWG</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>主査： 佐藤 滋(早稲田大学・都市計画委員長)</p> <p>委員： 三輪康一(神戸大学・アーバンデザインWG担当)</p> <p>出口 敦(九州大学・アーバンデザインWG主査)</p> <p>中井検裕(東京工業大学・まちづくり・建築ガイドラインWG主査)</p> <p>有賀 隆(名古屋大学・参加のまちづくり協働デザインWG主査)</p> <p>志村秀明(芝浦工業大学・都市計画委員会幹事・情報化WG)</p> <p>小浦久子(大阪大学・都市計画委員会幹事・まちづくり・建築ガイドラインWG担当)</p> <p>北原啓司(弘前大学・都市計画委員会幹事)</p> <p>池田孝之(琉球大学・環境地域計画WG主査)</p>	

<p>設置 WG (WG名:目的)</p>	<p>(1) アーバンデザインWG アーバンデザイン図集の刊行を目的に、資料収集、分析を行う</p> <p>(2) まちづくり・建築ガイドラインWG 新たな建築・まちづくりに関わる法制度や事業制度などについて、情報収集・分析を行い、その活用・考え方について専門的支援とガイドライン等の検討、刊行を行う</p> <p>(3) 情報化WG メーリングリストの整備と、それを活用した委員会活動・成果の情報公開と広報活動</p> <p>(4) 環境地域計画WG 東南アジア諸国の都市居住環境を中心とした、自然環境保全・改善に関わる都市計画手法、制度の研究と成果の公開</p> <p>(5) 参加のまちづくり協働デザインWG 参加型都市計画の理論・方法論に関する学術的調査研究を行い、全国各地でのまちづくりの実践的活動成果を体系的に整理する</p>
<p>2003 年度予算</p>	<p>円</p>

項 目	自己評価
<p>委員会活動状況 (開催日・参加人数)</p>	<p>都市企画小委員会は、タスク別のWGの活動を基本とする WGは目的の達成のため、必要な活動を行う</p> <p>(1) アーバンデザインWG アーバンデザイン図集のための資料分析 4月(6人)/5月7日(6人) アーバンデザイン図集の刊行企画が通ったことから、以降の研究活動はメールによる会議と刊行企画の会議(刊行委員会)とあわせて行うこととした</p> <p>(2) まちづくり・建築ガイドラインWG 景観法の成立をうけて、法制度とその運用の可能性に関する研究・分析を行うとともに、自治体に対する運用ガイドラインの作成について検討を進め、景観法ガイドラインの刊行を進めている 11月2日(6人)/12月14日(5人)/1月12日(7人)</p> <p>(4) 情報化WG 委員会メーリングリスト運営と支部間テレビ会議の検討: 1月10日(6人) 主に、メール会議により意見交換、メーリングリストの整備を行った (参加人数: 6人)</p> <p>(4) 環境地域計画WG 都市計画委員会の小委員会に位置づけを変更した (小委員会報告を参照のこと)</p> <p>(5) 参加のまちづくり協働デザインWG 参加型都市計画に関する事例収集などを各委員が行い、情報収集の状況と分析の進め方について、主にメール会議により方針の確認を行った (参加人数: 10人)</p>
<p>得られた成果</p>	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) (内容と公表形態)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーバンデザイン図集の刊行企画(学会刊行委員会にて承認済み) ・景観法ガイドラインの刊行企画(学会刊行委員会にて承認済み) ・まちづくり建築法制度、ガイドライン関連の研究成果に基づく学会特別研究委員会との協働 ・都市計画委員会-支部関連委員会間の情報共有化システムの検討 ・環境保全・改善型都市計画手法の研究成果の取りまとめとシンポジウム企画 <p>委員会 HP アドレス: http://www.ajj.or.jp/jpn/comm/i.htm</p>

<p>目標の達成度</p>	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本小委員会は、都市計画委員会の研究活動を広く専門家や地域社会への公開と普及を促進するために、出版物の刊行や講習会・シンポジウムの開催を行うことを目的とし、タスクフォース型ワーキンググループによりテーマごとに活動を行ってきた。それぞれのタスクWGでは、以下のような目標を達成している。 <p>(1) アーバンデザインWG アーバンデザインに関する資料収集・分析およびこれまでのアーバンデザインの体系化を行い、図集の刊行を進めており、研究活動の成果を広く社会に出版物により公開する準備ができた。</p> <p>(2) まちづくり・建築ガイドラインWG 今年度新たに制定された景観法について、制度の考え方および運用の可能性について、先行的に分析を進め、それをガイドラインとして刊行を進めており、自治体、専門家に対して専門的支援、技術的情報を提供することができる。</p> <p>また、建築基準法・都市計画法特別委員会と協働することにより、シンポジウム等を通して、制度の考え方についての議論・提案を社会的に公開していくことができた。</p> <p>(3) 情報化WG 都市計画委員会における情報共有化を進めることにより、小委員会の大きな目的である委員会での研究成果の共有化を進める基礎づくりが進んだ。</p> <p>(4) 環境地域計画WG 小委員会として新たな活動につながった。 都市計画委員会の研究分野の広がりができた。</p> <p>(5) 参加のまちづくり協働デザインWG 事例収集に終わったが、今後のまちづくりに関する社会的ニーズに対応する基礎的作業が進んだ。</p>
<p>その他評価すべき事項</p>	<p>特になし</p>